

「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」

評 価 基 準

(品質・性能等の評価に関する事項)

令和 8 年版

評価対象材料名
細 目

クローザ類

- ① ドアクローザ
- ② ヒンジクローザ
- ③ フロアヒンジ

一般社団法人 公共建築協会

評価基準の説明 【クローザ類 ①ドアクローザ】

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和7年版16章8節に規定する建具用金物のうちのドアクローザとする。

2. 引用している規定

- （1）標仕 令和7年版
- （2）日本産業規格
 - ・JIS A 1510-2：2019「建築用ドア金物の試験方法―第2部：ドア用金物」
 - ・JIS A 1510-3：2001「建築用ドア金物の試験方法―第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ」
 - ・JIS K 2269：1987「原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法」

3. 令和6年度版からの主な改定

- ・なし

4. 令和7年度版からの主な改定

- ・なし

5. その他

- （1）赤字は、令和6年版からの改定箇所を示す。

評価基準

クローザ類 ①ドアクローザ

1

項 目			品 質 ・ 性 能				備 考	
材 料	見え掛り部の材質		本 体	アルミニウム合金製				
			アーム部	鋼製（焼付け塗装）				
性 能	初期性能	閉 じ モ ー メ ン ト ・ 効 率	Grade	番手	閉じモーメント (N・m)	効率 (%)		
			Grade1	1	9 以上	45 以上		
				2	13 以上	50 以上		
				3	18 以上	55 以上		
				4	26 以上	60 以上		
				5	37 以上			
				6	54 以上	65 以上		
Grade2	1		5 以上	30 以上				
	2		10 以上					
	3		15 以上	35 以上				
	4		25 以上	40 以上				
	5		35 以上	45 以上				
	6		45 以上					
注1)パラレル取付けは、上記の閉じモーメントの70%程度 までとする。 2)コンシールド型は、上記の閉じモーメントの50%程度 までとする。								
閉 じ 速 度	常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を 5～8 秒に調整できること。							
温 度 依 存 性 (緩 衝 油 の 流 動 点) (℃)	－15 以下							
ス ト ッ プ 力 (N・m) (機能を有する機種のみ)	入 力 : 60 以下 (ただし、コンシールド型は 200 以下) 解除力 : 8 以上							
バ ッ ク チ ェ ッ ク 機 能 (機能を有する機種のみ)	ドア開扉方向に荷重 60N/㎡を、開扉 50° から負荷すること。 バックチェック開始角度 (70～85°) から、さらに 20° まで 開く間の時間は、0.8 秒以上とすること。							
ディレードアクション機能 (機能を有する機種のみ)	開扉 90° の位置からディレードアクション解除角度 (60～ 75°) までの時間が 10 秒以上確保できること。また、その時 間の調整が可能であること。							

項 目			品 質 ・ 性 能				備 考
性 能 (続 き)	耐 久 性 能 (繰返し開閉試験後の性能)	閉 じ モ ー メ ン ト ・ 効 率	Grade	番手	閉じモーメント (N・m)	効率 (%)	
			Grade1	1	9 以上	45 以上	
				2	13 以上	50 以上	
				3	18 以上	55 以上	
				4	26 以上	60 以上	
5	37 以上						
6	54 以上			65 以上			
Grade2	1		5 以上	30 以上			
	2		10 以上				
	3		15 以上	35 以上			
	4		25 以上	40 以上			
	5		35 以上	45 以上			
	6		45 以上				
注1) パラレル取付けは、上記の閉じモーメントの70%程度までとする。 2) コンシールド型は、上記の閉じモーメントの 50%程度までとする。							
	閉 じ 速 度	常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を 5～8 秒に調整できること。					
	バックチェック機能 (機能を有する機種のみ)	ドア開扉方向に荷重 60N/㎡を、開扉 50° から負荷すること。バックチェック開始角度 (70～85°) から、さらに 20° まで開く間の時間は、0.8 秒以上とすること。					
	ディレーードアクション機能 (機能を有する機種のみ)	開扉 90° の位置からディレーードアクション解除角度 (60～75°) までの時間が 10 秒以上確保できること。また、その時間の調整が可能であること。					
外 観 ・ 機 能	製 品 お よ び 付 属 品 の 形 状		全体の形状が正しく、傷がなく、機能および耐久性を減ずるような欠陥がないこと。				
	機 能		ドアを確実に閉じ、働きは円滑で、調整弁は自由に速度調節ができること。				
	ス ト ョ ッ プ 装 置 の 機 能		ストップ装置のあるものは、所定の開き角度で容易にストップがかけられること、また外せるものとする。				
	取 付 け 部 品		必要な取付け部品が付属していること。				
試 験 方 法		1. 試験の条件等は、JIS A 1510-3 の「5. 試験の一般条件」、「6.1 試験の概要」および「6.2 試験装置」による。 2. 閉じモーメント (閉じ力) 測定、効率の計算、閉じ速度測定、ストップ力測定、バックチェック機能測定およびディレーードアクション機能測定は、JIS A 1510-3 の「6.3.2 ドアクローザの開閉試験」による。 3. 温度依存性 (流動点試験) は、JIS K 2269 による。 4. 繰返し開閉試験は、JIS A 1510-3 の「6.3.2 ドアクローザの開閉試験」による。 5. 初期性能の測定のための繰返し開閉回数は、閉じモーメント (閉じ力) 測定、効率の計算、閉じ速度測定については、5000 回、ストップ力測定、バックチェック機能測定、ディレーードアクション機能測定については、50 回とする。 6. 耐久性能の測定のための繰返し開閉回数は、Grade1 は 50 万回、Grade2 は 20 万回とする。 7. 試験体は、申請品のうち、パラレル型 (汎用品) とし、当協会と協議のうえ選定する。 8. バックチェック機能およびディレーードアクション機能は、別途の試験体で各々の試験を行う。 9. 試験ドアの質量は、1 番手は 25kg、2 番手は 40kg、3 番手は 60kg、4 番手は 80kg、5 番手は 100kg、6 番手は 120kg とする。					

評価基準の説明 【クローザ類 ②ヒンジクローザ】

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和7年版16章8節に規定する建具用金物のうちのヒンジクローザとする。

2. 引用している規定

（1）標仕 令和7年版

（2）日本産業規格

- ・JIS A 1510-2：2019「建築用ドア金物の試験方法―第2部：ドア用金物」
- ・JIS A 1510-3：2001「建築用ドア金物の試験方法―第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ」
- ・JIS K 2269：1987「原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法」

3. 令和6年度版からの主な改定

- ・なし

4. 令和7年度版からの主な改定

- ・なし

5. その他

（1）赤字は、令和6年版からの改定箇所を示す。

項 目				品 質 ・ 性 能			備 考	
材 料	見え掛り 部の材質	丁 番 形		鋼製（焼付け塗装）				
		ピボット形	カバー部	ステンレス製				
			本 体	鋼製				
性 能	初期性能	閉 じ モ ー メ ン ト ・ 効 率		番手	閉じモーメント (N・m)	効率 (%)		
				1	5 以上	30 以上		
				2	10 以上			
				3	15 以上	35 以上		
	4			25 以上	40 以上			
	5			35 以上	45 以上			
	6	45 以上						
	閉 じ 速 度	常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を 5～8 秒に調整できること。						
温 度 依 存 性 (緩衝油の流動点) (℃)		-15 以下						
ス ト ッ プ 力 (N・m)		入 力 : 100 以下 解除力 : 3 以上						
耐久性能 (繰返し開閉試験後の性能)	閉 じ モ ー メ ン ト ・ 効 率		番手	閉じモーメント (N・m)	効率 (%)			
			1	5 以上	30 以上			
			2	10 以上				
			3	15 以上	35 以上			
4			25 以上	40 以上				
5			35 以上	45 以上				
6	45 以上							
閉 じ 速 度	常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を 5～8 秒に調整できること。							
外 観・ 機能	製 品 お よ び 付 属 品 の 形 状			全体の形状が正しく、傷がなく、機能および耐久性を減ずるような欠陥がないこと。				
	機 能			ドアを確実に閉じ、働きは円滑で、調整弁は自由に速度調節ができること。				
	ス ト ッ プ 装 置 の 機 能			ストップ装置のあるものは、所定の開き角度で容易にストップがかけられること、また外せるものとする。				
	取 付 け 部 品			必要な取付け部品が付属していること。				

評価基準

クローザ類 ②ヒンジクローザ

2

項目	品質・性能	備考
試験方法	- 試験の条件等は、JIS A 1510-3 の「5. 試験の一般条件」、「6.1 試験の概要」および「6.2 試験装置」による。 - 閉じモーメント（閉じ力）測定、効率の計算、閉じ速度測定およびストップ力測定は、JIS A 1510-3 の「6.3. 1 フロアヒンジ及びヒンジクローザの開閉試験」による。 - 温度依存性（流動点試験）は、JIS K 2269 による。 - 繰返し開閉試験は、JIS A 1510-3 の「6.3. 1 フロアヒンジ及びヒンジクローザの開閉試験」による。 - 初期性能の測定のための繰返し開閉回数は、閉じモーメント（閉じ力）測定、効率の計算、閉じ速度測定については、5000 回、ストップ力測定については、50 回とする。 - 耐久性能の測定のための繰返し開閉回数は、10 万回とする。 - 試験体は、申請品のうちから、1. 丁番型、2. 持出し吊り込み型、3. 中心吊り込み型の優先順位を原則とし、当協会と協議のうえ選定する。 - 試験ドアの質量は、1 番手は 25kg、2 番手は 40kg、3 番手は 60kg、4 番手は 80kg、5 番手は 100kg、6 番手は 120kg とする。	

評価基準の説明 【クローザ類 ③フロアヒンジ】

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和7年版16章8節に規定する建具用金物のうちのフロアヒンジとする。

2. 引用している規定

（1）標仕 令和7年版

（2）日本産業規格

- ・JIS A 1510-2：2019「建築用ドア金物の試験方法—第2部：ドア用金物」
- ・JIS A 1510-3：2001「建築用ドア金物の試験方法—第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ」
- ・JIS K 2269：1987「原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法」

3. 令和6年度版からの主な改定

（1）内容の見直し

- a. 「初期性能」および「耐久性能（繰返し開閉試験後の性能）」の「戸の閉鎖位置」の規定について、測定位置が不明確のため、変更

4. 令和7年度版からの主な改定

- ・なし

5. その他

（1）赤字は、令和6年版からの改定箇所を示す。

評 価 基 準

クローザ類 ③フロアヒンジ

1

項 目			品 質 ・ 性 能				備 考
材 料	見え掛り部の材質	カバー部	ステンレス製				
		本 体	鋼製				
性 能	初期性能	閉 じ モ ー メ ン ト ・ 効 率	Grade	番手	閉じモーメント (N・m)	効率 (%)	
			Grade1	1	9 以上	45 以上	
				2	13 以上	50 以上	
				3	18 以上	55 以上	
				4	26 以上	60 以上	
				5	37 以上		
				6	54 以上	65 以上	
			Grade2	1	5 以上	30 以上	
				2	10 以上		
				3	15 以上	35 以上	
4	25 以上			40 以上			
5	35 以上			45 以上			
6	45 以上						
閉 じ 速 度	常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を 5～8 秒に調整できること。						
温 度 依 存 性 (緩衝油の流動点) (℃)	－15 以下						
ス ト ッ プ 力 (N・m)	入 力 : 100 以下 解除力 : 10 以上						
戸 の 閉 鎖 位 置	軸心から 1000mm の位置に換算し、± 3mm 以内						
性 能	耐久性能 (繰返し開閉試験後の性能)	閉 じ モ ー メ ン ト ・ 効 率	Grade	番手	閉じモーメント (N・m)	効率 (%)	
			Grade1	1	9 以上	45 以上	
				2	13 以上	50 以上	
				3	18 以上	55 以上	
				4	26 以上	60 以上	
				5	37 以上		
				6	54 以上	65 以上	
			Grade2	1	5 以上	30 以上	
				2	10 以上		
				3	15 以上	35 以上	
4	25 以上			40 以上			
5	35 以上			45 以上			
6	45 以上						
閉 じ 速 度	常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を 5～8 秒に調整できること。						
戸 の 閉 鎖 位 置	軸心から 1000mm の位置に換算し、± 6mm 以内						

項目		品質・性能	備考
外観・機能	製品および付属品の形状	全体の形状が正しく、傷がなく、機能および耐久性を減ずるような欠陥がないこと。	
	機能	ドアを確実に閉じ、働きは円滑で、調整弁は自由に速度調節ができること。	
	ストップ装置の機能	ストップ装置のあるものは、所定の開き角度で容易にストップがかけられること、また外せるものとする。	
	取付け部品	必要な取付け部品が付属していること。	
試験方法	1. 試験の条件等は、JIS A 1510-3 の「5. 試験の一般条件」、「6.1 試験の概要」および「6.2 試験装置」による。 2. 閉じモーメント（閉じ力）測定、効率の計算、閉じ速度測定、ストップ力測定および戸の閉鎖位置測定は、JIS A 1510-3 の「6.3. 1 フロアヒンジ及びヒンジクローザの開閉試験」による。 3. 温度依存性（流動点試験）は、JIS K 2269 による。 4. 繰返し開閉試験は、JIS A 1510-3 の「6.3. 1 フロアヒンジ及びヒンジクローザの開閉試験」による。なお、繰返し開閉回数は、Grade1 は 50 万回とし、Grade2 は 30 万回とする。 5. 初期性能の測定のための繰返し開閉回数は、閉じモーメント（閉じ力）測定、効率の計算、閉じ速度測定については、5000 回、ストップ力測定、戸の閉鎖位置測定については 5000 回、ストップ力測定については 50 回とする。 6. 耐久性能の測定のための繰返し開閉回数は、Grade1 は 50 万回、Grade2 は 30 万回とする。 7. 試験体は、中心吊り込み（両自由）の汎用品とし、当協会と協議のうえ選定する。 8. 試験ドアの質量は、1 番手は 25kg、2 番手は 40kg、3 番手は 60kg、4 番手は 80kg、5 番手は 100kg、6 番手は 120kg とする。		